

園芸療法活動報告

学生相談室では、二〇〇〇年度より人間科学研究所との共同研究事業として園芸療法活動を行っている。本年度も、毎週金曜日の午後には開催している学生向けの「金曜Reアワー」という自由参加型のグループの中で、季節に合わせて園芸療法プログラムを実施しているが、コロナ禍のため合食禁止であるなど、従来通りの活動を行うことが難しい状況は依然続いている。このため、昨年同様、園芸活動の後その収穫物で行っていた調理プログラムは計画せず、レシピのプリントを収穫物と共に学生に配布するにとどめている。担当は、事務スタッフである梅原と田中、カウンセラーの筆者の三人である。また今年初めて実施した苔リウムのプログラムには、カウンセラーの長谷が講師として関わっている。

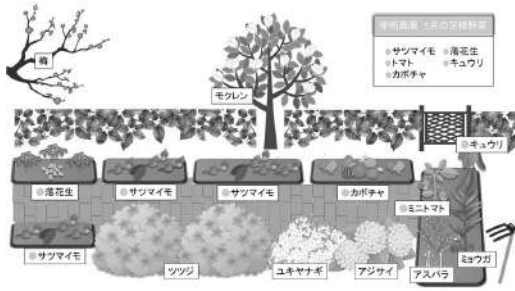
昨年から継続して、相談室の新型コロナウイルス特設サイトの中の「植物たち」のコーナーやブログで、相談室内の畑の様子や近隣の草花の写真のネット配信を行っているが、今年度はこれに加えて、「学相農園カレンダー」「学相農園MAP」を作成した(写真①②)。こちらでは、学相農園(学生相談室の園芸療法スペースと畑)での活動内容、例えば畝づくりや苗の定

植、日々の世話から収穫までの畑を世話する様子がカレンダーに記されており、クイックするとその日の植物の写真も閲覧できる。園芸プログラムで五月に植えたサツマイモの成長も見ることができるとともに、参加した学生から大変好評である。学生にいつでも四季折々の花や野菜の成長を見て四季の移り変わりを楽しんでもらえるように、今後も継続していきたい。

次に、金曜Reアワーでの園芸活動を報告する。事前準備としてスタッフが四月中旬にサツマイモ畑に石灰散布を行い、四月下旬に肥料散布と畝作りを行った。五月六日に園芸プログラム



写真① 学相農園カレンダー



写真② 学相農園 MAP

ことができた。参加者のうち三名がリカレント生(1)であったが、昨年から継続して参加した上回生がうまく間を繋ぎ、活発な世代間交流が見られた(写真③④)。

初の試みとして前期と後期に一回ずつ「苔リウムを作ろう」を実施した。七月八日に九名、一〇月七日に七名の学生が参加した。苔リウムとは、苔のテラリウムのことで、苔を使って、ガラス容器の中に小さな世界を作る。苔は身近な存在だが、普段意識を向けないためその生態については知らないことが多い。

「春のガーデンング」を開催し、サツマイモ、落花生、ミニトマトとキュウリの苗付けを行った。今回は、サツマイモの苗をベニアズマ、ベニハルカ、アンノウイモの三種類、計二〇本の苗付けを行った。参加学生は八名で、三グループに分かれて作業した。その後、昨年の九月に植えて大きく育ったタマネギを収穫し、料理レシピと共に一個ずつ持ち帰ってもらった。当日は快晴で、気持ちよく作業を行う



写真④ タマネギの収穫



写真③ サツマイモの苗植え

苔は世界で約二万種、日本では二〇〇〇種以上あるらしい。その中で今回はヤマゴケ、シッポゴケ、コツボゴケ、スギゴケ、シノブゴケを用意した。苔以外に土、水、石、フィギュアを用意する。まず容器に高さ1cmになるくらい土を入れ、土が動かなくなるまで水を吹きかける。地面に傾斜を作らなかったら、土を足す。その後苔を植えていくが、苔の種類によって植え方が異なる。短い苔はピンセットで摘んで土の上に置き、背が高い苔は、下部を尖らせ、ピンセットで土に差し込んでいく。その後はお好みで、石やフィギュアを加えて完成である。お手入れ方法は、定期的な霧吹きを



写真⑤ 苔リウム制作風景

することと伸びてくる黄色い部分をカットすることだそうので、生物なので、一か月後、二か月後と成長する姿も楽しめるとのことであった。苔に触ること自体初めての学生ばかりであったが、各自自分のペースで制作に熱中し、「急傾斜で森を表現してみた」「日本庭園を意識して作った」などと自分の作品について説明する姿が見られた(写真⑤⑥)。

一〇月二八日の Reアワープログラム「秋の収穫を楽しもう」にて、サツマイモと落花生の収穫を行った。今回は一〇名の学生が参加した。三種類のサツマイモを植えていたので、三グループに分かれイモ堀りを行い、その後落花生を収穫した。当日初めて会った者同士も協力しながら楽しそうに作業をしてい



写真⑦ 大きなサツマイモができました！



写真⑥ 苔リウム作品

た。昨年度よりもサツマイモは豊作で、学生一〇人に各種類一個ずつ合計三〇個配ることができた。また落花生は昨年より大きい粒のものを収穫できた(写真⑦⑧)。学生からは「土の中で落花生が生っているのを初めて見た。土の中で育っていてびっくりした」「土いじりをしたのは小学生ぶりでも楽しかった」などの感想を聞くことができた。同じ学部同士でグループになった学生同士が学年を超え情報を交換する姿が見られた。また、学部間交流以外に、前期に引き続きリカレント生との世代間交流をする姿も見られ、和気あいあいとした場となった。今後の予定としては、一



写真⑧ 落花生の収穫

二月一六日に、バラやシクラメン、カーネーションなどを使いクリスマスにちなんだアレンジメントを製作する予定である。個人の作品に加え、一人一本ずつ花を選び、順番にオアシスにさしていく共同アレンジメントの製作も計画している。

今年もコロナ禍の制限のある中、私たちスタッフは試行錯誤を繰り返しながら園芸療法スペースの運営を行った。学生向けのグループ活動で使用する作物以外にも、どのシーズンでもカボチャやカブなど何かしらの野菜を育て、土壌が豊かになるように畑の世話を怠らないように配慮した。今後も先行きが見通せない混沌とした時代ではあるが、まずは学生向けに園芸療法を継続して実施できていることに感謝しつつ、学生相談室とい

う限られた場で、自分たちも楽しみながら学生に自然に触れ合う機会を提供できるよう努力していきたい。

註

(1) リカレントとは学校教育からいったん離れた社会人の学びなおしの教育システムのこと。

甲南大学では二〇二〇年度にリカレント教育センターが開設され、二〇二一年度から履修証明プログラムが開始している。

(渡里千賀)